

※ ①～⑩までは、「建物をつかいこなす社会像」をそれぞれの視点から記述した具体像（テーマ）

⑩ 「つかい・改修し・継承し・つかい終わる」ことに配慮した建物が新築される

- ✓ 社会が求める安全性能・環境性能等が確保された建物が、**専門人材の関与の下で新築**される。
- ✓ 新築時に確保される性能のみならず、**維持管理・更新・解体への配慮**を行うことが高く評価される。

➡ 質/技術WGと連携

④ 大切につかい続けることで、建物の価値が上がる

- ✓ **維持管理・修繕等に専門家が関わる**とともに、**所有者や利用者による日常管理等**と合わせて、**建物としての価値が維持・向上**する。
- ✓ 安全性を確保しつつ、**ニーズに応じた多様なつかい方**（用途の変更）が可能となる。

➡ 担い手WGと連携 ➡ DXWGと連携

⑦ つかい続けられる建物が、円滑に次の「つかい手」に渡る

- ✓ 取引上の安全・トラブルの未然防止が図られる。
- ✓ 計画に基づき、**適切な維持管理がなされ、その記録を活用**でき、これらの情報を元に価値が評価される。
- ✓ 蓄積された**過去の取引情報**をもとに、価値が評価できる。

➡ DXWGと連携

⑤ 建物の価値を上げ、「つかい手」のニーズに沿った改修ができる

- ✓ 安全性を確保しつつ、経済面・技術面に過大な負担がなく、**多様なニーズに応じた改修**が可能となる。

⑥ 安心して改修工事を行うことができる

- ✓ **責任分担の明確化**による改修トラブルの未然防止が図られる環境が整っている。
- ✓ **改修に必要な技術・知識を有する専門家が、市場で適切に関与**する。

➡ 質/技術WGと連携 ➡ 担い手WGと連携

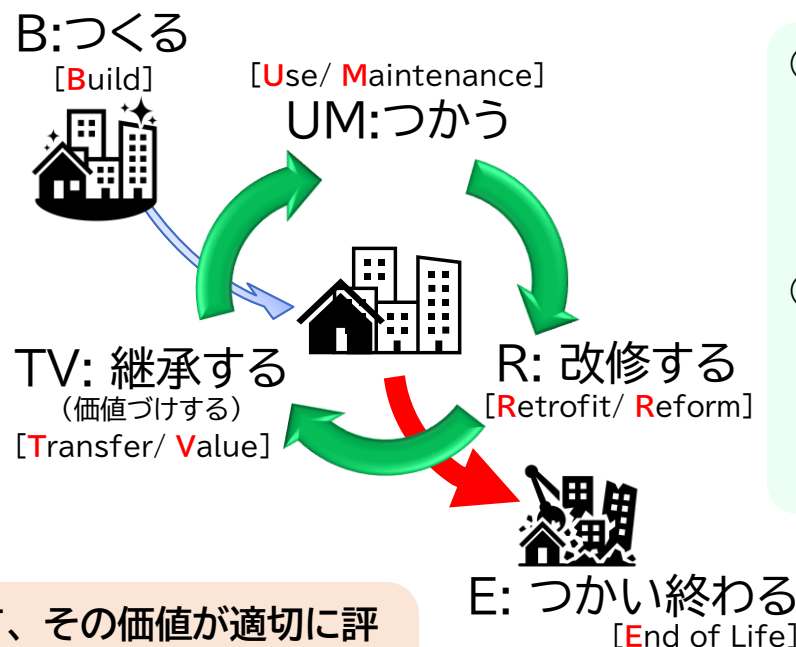
C: 共通

① 建物のライフサイクルを通じて、その価値が適切に評価され、新たな価値も創出される

② 「つかい手」も、積極的に建物の「つかい方」や「改修」に関わる

③ 個々の建物が地域の魅力向上に寄与し、地域の持続性を高める

➡ 担い手WGと連携 ➡ DXWGと連携 ➡ 市街地WGと連携



⑧ 「つかい終わる」目安が社会的に認識されている

- ✓ 安全面・財務面などから、**つかい続けられる建物かどうかを適切に判定**する。

⑨ 建物の適切な終わり方を検討し実施する

- ✓ 積極的に**サーキュラーエコノミー**に貢献する。